

第2回 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年7月2日(木) 午前10時から正午まで

2 会 場 吉田特別支援学校 会議室

3 参加者

○委員	浜松学院大学 特任教授	山田 浩昭 様
	駿遠学園管理組合園長	藁科 知行 様
	ハイナン農業協同組合流通販売部長	峯野 利也 様
	吉田町片岡地区 自治会長	伊吹 雅夫 様
	本橋テープ株式会社 代表取締役	本橋 真也 様
	吉田町防災課統括	大石 洋三 様
	保護者代表	松井 則章 様

○学校職員

校 長	伊藤 聖子	副校長	夏目 奈保子	事務長	村松 みゆき
教 頭	竹下 哲之	分教室教頭	美尾 陽子	小学部副主事	青木 真衣
中学部主事	小野田 朋弘	高等部主事	菅野 圭	肢体訪問統括	河野 康平
教務主任	加茂 真澄	コーディネーター	斎藤 小百合	防災課長	土屋潤一郎

4 議事録

(1) 校長挨拶

今回の学校運営協議会では、防災、地震にスポットを当てて協議していきたい。
先日は外国で発生した地震による津波警報発令があった。遠方での地震の影響にも
気を付けていきたい。

先日の風水害避難訓練では、大雨により湯日川の氾濫が起きるという想定で行っ
た。教職員は訓練慣れしてしまうということもある。本校が避難所となった際には、地域
の方が来た時の対応も求められる。協議の中で、委員のお知恵を頂戴したい。

(2) 協議

テーマ:防災対策、防災教育について学校に期待すること(地震を想定して)
3つのグループに分かれ、KJ法を用いて協議をした。

Aグループ

- ・事前の備え→安全確保→引き渡し→避難所の運営というように、時系列で必要なことをまとめていった。
- ・事前の備えという点では、設備、特に避難所となる体育館の安全や、電気、エアコン

が使用できるとよい等、学校で何を準備しどんなことを想定しておくことができるか考えた。

B グループ

- ・情報を発信する役割として、無線機の使い方や災害用のチャンネルで吉田町からの情報の共有ができるという。
- ・避難所で現実的にどのような役割を担えるのか。子どもたちが在校時だったら、子どもたちの不安定さへの対応、けが人への対応等、少ない人数（教職員）でどのようなことができるのか想定した訓練が必要ではないか。
- ・吉田町との連携し、物資の保管、配布場所としての機能が発揮できる。

C グループ

- ・防災学習のさらなる充実が必要である。長くなる避難所生活、子どもたちができることや安心して過ごすための手立てを考える学習することも必要である。
- ・高等部の生徒が、地域への復旧作業に役に立てることもあるかもしれない。
- ・避難所運営と並行して学校再開となったときには、新たな取り組みが求められる。体育館で一緒に体操する等、子どもたちと避難している方たちと一緒にできることを考えておくという。

(山田委員長)

時系列でまとめていくと、それぞれの場面で考えなければならないことが膨大にあるということに気付く。そこを埋めていく作業が必要である。しかし、前提として、非常時の子どもたちや教職員の気持ちは普段とは違うということを心に留めておかなければならない。

避難所生活での「皆で体操」は心の余裕になる。生徒が地域の役に立てると良い。また、教育の再開を具体的にどのようにしていくかということも、課題になるだろう。

(副校長)

今考えなければならないこと、今すぐにでもできそうなことが意見として挙がった。次回の学校運営協議会の議題にしていく。

(校長)

できることとできないことの優先順位を今後は整理していきたい。
学校だけでできることには限りがある。皆さんの御協力をいただけるとありがたい。

(3) 校内参観

(4) 駿遠分教室の近況報告

大きな事故、けが等無く子どもたちは元気に活動している。近くを通る大井川鉄道では、子どもたちの好きなキャラクターにデコレーションされた機関車が通り、子どもたちが元気に手を振っている。機関車からも汽笛で返事があり、微笑ましい光景である。

